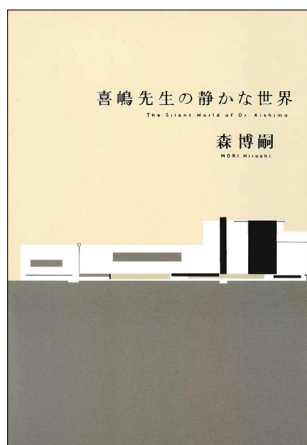


## ■若手に読んでもらいたい本

青島貞人のおすすめ  
大阪大学大学院理学研究科 教授

分野：小説  
書籍名：喜嶋先生の静かな世界  
著者名：森 博嗣  
出版社：講談社  
出版年：2010年  
価格：1,600円

ある日、編集委員の先生からお声をかけていただき、すぐに頭に浮かんだのは2冊の古典でした。350年以上前、日本とフランスでほぼ同時期に書かれた、「五輪書(宮本武蔵著)」と「精神指導の規則(デカルト著、絶筆本)」です。いずれも高校～大学入学前後に背伸びしながら読んだ本でしたが、前者は生きていく上での指針に、後者は理系に来るきっかけになった本です。読み直してもやはりお勧めの本だと思いましたが、今回はもう少しやわらかくて読んでもらえそうな本を選びました。

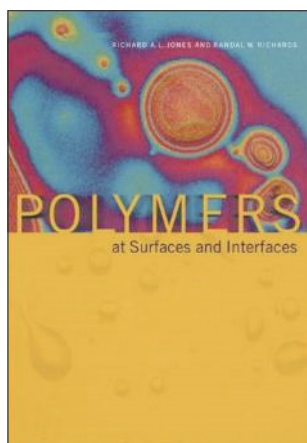
お勧めするのは、「喜嶋先生の静かな世界」です。森 博嗣さんという元某国立大学工学部助教授(本人談)が作者で、「笑わない数学者」や「すべてがFになる」などでよく知られた推理小説家です。本の内容は、大学に入学した主人公の「僕」が研究者になっていく過程を書いた、いわゆる「研究者の青春小説」です。主人公は、研究だけを考えている喜嶋先生に少しずつ

惹かれていき、一日中たった一つの方程式を睨んでいるような幸せな時間に漬っていきます。個人的に思い返すと、当時若いだけで何者でもなかった私を導いてくれたのも同じような先生、先輩であり、研究だけの環境でした。号泣しながら読みました。そして、「創造者はつねに狂気と正気のはざまの危険で険しい一本道を歩み続ける運命を背負っている。しかし、その道を選んだ幸せな人々よ。狂気にも正気にも、転落することなく、この道をいつまでも歩き続けよ」という、野崎一京大名誉教授が執筆本中で引用された哲学者梅原猛先生の言葉を思い出しました。

すでに研究者になられた方には当時の熱かった青春時代を思い出してもらい、研究者を志している若手には研究の素晴らしさを感じ取っていただければうれしいです。



## ■私の役に立った本

田中敬二のおすすめ  
九州大学大学院工学研究院 教授

分野：高分子科学・工学  
書籍名：Polymers at Surfaces and Interfaces  
著者名：Richard A. L. Jones and Randal W. Richards  
出版社：Cambridge University Press  
出版年：1999年  
価格：\$92  
(Amazonなどではもっと安く購入できます)

講義用テキスト以外で一番多く開くのが、和田八三久先生著の「高分子の固体物性(培風館)」とJones & Richards著の「Polymers at Surfaces and Interfaces」です。前者では、高分子の基礎をレオロジー的固体という観点から、わかりやすくも正確に書かれています。学生さんには是非とも読んで頂きたいのですが、残念なことに廃版となっています。

ということで、このスペースでは後者を紹介させていただきます。はじめに、表面・界面の考え方が述べられ、X線・中性子・光の反射率測定、表面光散乱、二次イオン質量分析に代表されるイオンビーム解析、光電子分光、さらには、表面間力や原子間力等をプローブとした実験法が詳述されています。その後は、ポリマーブレンドの界面、高分子の吸着や表面・界面濃縮現象、ポリマーブラシ、高分子の力学物性、水面上での薄膜挙動について、実験例を示しながら解説されています。

私が読み込んだ箇所は、高分子多成分系の表面濃縮における崩壊長や過剰量に関する記述です。これらの分野は、筆者のJonesが精力的に研究を行っていたため、基礎的な理論や考え方はもちろん、実例を示しながら応用まで理路整然とわかりやすく述べられています。出版後15年が経過していますが、私自身、データの解釈や論文執筆、また、表面・界面改質剤の設計などの際には、現在でも、読みなおしています。

同書は高分子界面構造・物性の教科書としても、高分子界面関連研究に関するハンドブックとしても、また、初学者だけでなく分野に精通した研究者でも十分に使える内容です。本棚に備えられることを強くお勧めします。

